

広の報のほりべつ

登別市民憲章

心身をきたえよく働いて、活気あふれる豊かなまちをつくりましょう。

●No.210●毎月1日・15日発行 発行/北海道登別市総務部公聴広報課



春がいっぱい「みどり市」

街に緑を一と例年続いている「みどり市」が、4月24日から5月1日まで常盤公園で、5月12日から16日までイーストショップ前広場でひらかれました。

「みどり市」は、市民憲章推進協議会が主催で、11軒の造園会社や植木業者が参加していますが、会場には、数千本の苗木や鉢物を用意し、市価より2割程度の安値で、毎年、市民の人気の的となっています。

常盤公園の会場は、少し膚寒い天気が続いたため、人出はもうちょっとといったところ。

それでも、公園内は、春のはなやいだ花をつけた、サツキやシャクナゲなど見られ、春がいっぱいあふれているといった感じです。

登別市内は、新しい住宅が多いので、最近は庭づくり、植木がさかんになっています。

「みどり市」の会場にも、夫婦連れや、お年寄りたちが、訪ずればらの木やツツジの鉢物を買っていくのが見られ、お客さんは絶えることはありません。

これから温くなるにつれ、休日など、庭いじり風景が多くみられることでしょう。

1976
5. 15

これまで前進

特集②

市民と市長と職員が一つ

市政一年の総決算

田村市長が誕生して、一年を経過したことから、この一年間をふりかえる特集を連載しています。

前回は、田村市政の基本理念と七大政策について、お知らせしましたが、今回は、これまでの公約の実現について、特集してみました。

○市民からの要望

160件を処理……

町内会長会議く各種行政懇談会く青空対話など積極的に開催

この一年間で、市民から田村市長へ出された各種の陳情、要望はあわせて百六十二件になりました。このうち市が単独で解決できたもの七十七件、国や道に要請して引継いだもの三十一件、残りの五十四件は、長期的に検討しなければ解決できないもの、実現困難なもの、市民として意見がのべられたもの、などとなっています。

なお、市の各窓口で職員が直接市民から、口頭電話によって相談に応じたものは、この中に含まれていません。

○地域住民の自主活動に一千万円を助成

市の広報を、各世帯に配布するなど、市政への協力費、町内会が独自で設置した施設（街路灯、児童遊園地）の工事代、その維持費（街路灯の電気代）など、町内会の運営を補助する目的で、市が交付した金額は、昨年度一千四百五十九千円（対前年二百万円増）となりました。このうち、町内会に加入する世帯全部に対し、一戸が負担する会費を二百円とみて、全額市が負担。このほか一町内会一万円の一律助成の金額を合わせただけで、七百万円を越えています。

○老人憩の家五ヶ所を新設……

この助成金は、地元住民が、お互いにまわりの環境をより住みよく保とうとする、自主的活動を援助するために……、市が交付しているものです。

○独居老人の家庭奉仕員を一名増員

昨年度は、新たに一名を増員、全部で七名のホームヘルパーが週二回、独居老人の家庭を訪問、炊事、洗濯、買物などのお世話をしています。

○富士保育所を二倍保育に

これまでの六十名定員を、百二十名保育に定員を二倍に増やし、施設も七千万円をかけて全部建て替えました。これで市内七つの保育所で五百十名の保育児を収容できることになりました。



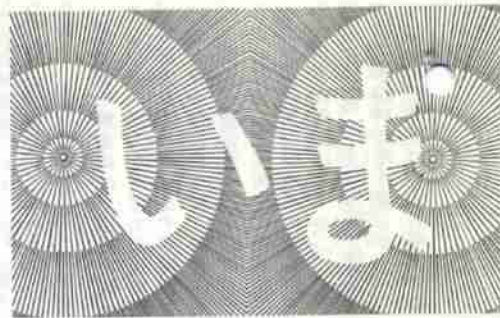
お年寄りにも手厚い施策がなされました。

田村市政昨年一年間は、市内のすみずみの市民から多くの声が十分に満たされるよう「市長と市民の対話」に、田村市長が率先して昼夜足まめに、各地の小市民集会、会議などに積極的に出席し、強まる市政への要望、市民の生の声を市長自身の耳で聞き、自身のハダで感じ、対

○老人憩の家五ヶ所を新設……

このほか本年度から、敬老会の助成金月七千円を一万円に、老人

……の地元の声にこたえるため、旧北大分院跡地を道から買取する努力を続けています。用地の確保が実現すれば、今年この地区に六十名定員の保育所を新しく建てる



市民みんなが参加をめざす市政

ため、予算化しているの、働く家庭婦人が安心して子供を託せる日も間近くなっています。

○保育料の引上げをおさえる

昨年度は、保育料に対する道の規準が引上げられましたが、本市では田村市長が「保育料引下げ検討」をすでに「公約」に記して、従って保育料をそのまま据置きま

このため、市民が負担する保育料は、道の規準に比べ約二割安の見当となっています。なお、保育料の算定方法は、保育を受ける乳幼児の保護者が前年国へ納めた所得税、保育児の年齢、保育所の定員数などによって、最高二万二千円程度から無料まで十一段階に区分、本市平均がほぼ一万円前後となっています。

保育所では、三歳未満児のオムツの取替えからミルク、おやつ、など一切を、三歳児以上は食事、教具教材など専門的なスケジュールの中で、毎日市の保母さんから心をこめた、愛の保育が安心して受けることができます。

市政は、働く市民の保育家庭を少しでも手助けしようと、本年度も保育料の値上げはしていません。

○富浦地区に児童館を新設

富士(富士町)、富浜(栄町)、梶別(梶別町)、の三つの児童館に、昨年度新しく富浦児童館が一千万円で完成、児童の生活文化、福祉に寄与することになりました。

このほか、昨年は、百五十万円

かけて、富士児童館も整備しています。これらの施設は、田村市政が、地域周辺の児童みんなのために、毎日の生活が健やかに育ってもらえるよう……十分な活用をめざして各地に建設・整備しているものです。

○災害遺児に毎月五千円

災害、交通事故などで、父母のどちらかが死亡した市内の小・中学生に対して、これまで毎月千五百円を交付していたものを、田村市長の「公約」によって、昨年七月一日から、これを五千円に増額し、手厚い援助の手がさしのべられました。昨年度は、十八名の小・中学生に百五十八万円を交付しています。

○ガン・成人病の健康診断一、八一五名が受診

成人病の健康診断は、昨年七月七日から二十九日までの期間市内十七ヶ所に検診所を開設、これに

市民が八百四十二名、ガンの検診は胃・婦人科をあわせて十一日間に九百七十三名の男女が、検診を受けました。これとは別に、一般健康相談日の毎週金曜日には、平均十七名の市民が市役所の健康相談所を訪れています。健康は宝と田村市政では、これからの市民保健に一層力を入れることにしています。

○市の保健婦を増員

人材難から確保が困難といわれていた、市の保健婦さんが、昨年からは今年にかけて五名も増員されました。

田村市長の「公約」が実現し、市民の健康管理が、これで一段と軌道にのるわけで、これからの活躍が一層期待されています。

○市民の悲しみに弔慰金……半年で131件

市民の悲しみに市の弔意を……と、田村市長が議会に提案、大人一万円、子供(十五歳以下)五千円の市民弔慰金が決まりました。昨年十月一日から実施されました。

これまでに、大人百二十四件、子供七件で百二十万五千円の弔慰金が、直接市からお悔やみのことばと共に、悲しみの家庭にとどけられています。どの遺族からも深い感謝の気持ちが市に寄せられ、悲しみを分かち合うことができてきました。

○公害分析測定器を購入

公害対策が、手遅れになっては

大変——まず、公害度の測定が先決と、昨年度は、年次計画の中で、純水製造装置器、三十四万円をはじめ、五種類の分析器・測定器を、新たに購入しました。

○横断歩道橋を一ヶ所、信号機六を新設

交通安全対策は、都市生活の中で重要な柱として「七大施策」で取り組んでいますが、昨年度は開発局に要請、鷺別地区に横断歩道橋を一ヶ所、道安委員会に申し入れて信号機を市内各地に六ヶ所横断歩道も六ヶ所を実現。

このほか市から八十八万円を支出して、各地に交通標識を設置しました。

また、昨年八月から十月にかけて、延べ二百八十名の市職員を交通指導員に街頭動員、運転者や歩行者の自覚を呼びかけました。またこの運動とタイアップ、上田企業プロダク・三洋工業・大平工業各社が、職場交通安全宣言を行っています。

本年度は、交通指導員三十名を五十名と一・七倍に増員、市内各所で活躍してもらおうことになっています。

○消防派出所を上鷺別地区に増設……消防栓も12基

室蘭市に隣接してふくれ上る上鷺別地区(美園町)に、昨年十二

月一日から消防派出所を増設して活動を開始しました。

また、昨年度は、新たに一千万円で、新装備のポンプ車一台を購入して、機動力を強化、消防栓十二基、防火水槽一基を新設しました。本年度は、ポンプ車一台、指押車一台、消防栓などの整備をあわせて一千九百万円がみこまれていますが、不時に備えて消防職員が火災の予防、統制ある訓練を積み上げて、地道な努力を続け、市民の財産を災害から守る体制を整えています。特に、親身になった緊急救助活動では、救急車の出勤回数六百六十五件、病院へ搬送した市民の数は六百二十名(いずれも、昨年一月から十二月まで)の数となっています。

○市から災害見舞金を受けられる……市独自の制度を新設

これも田村市長の「公約」実現

火災・洪水・地震などで市民が死亡、負傷、住居の流失・埋没、焼失するなど、不測の被害を受けた場合、最高十万円まで見舞金を受けられるよう、昨年七月一日からこの制度ができました。

早速昨年度は、五件で二十万五千円が、被災した家庭にとどけられ、よろこばれています。

○この一年で、市道三十一キロを舗装……舗装率79.7%

市街化区域内の市道が、全部で八十四基、このうち、三十六基が舗装道路(田村市長就任時)を、昨年一年間で、約三十一基



未来を担う児童の福祉・教育にも力が入れられました。

を一挙に舗装したので、六十七歳の舗装道路が、ホコリや雨から市民の足を守ることになりました。これとあわせて、民間地主が所有する私道十七箇所を市の道路に認定、舗装計画に組みこんで、これから整備される訳ですが、これに加えても六十六・三割の舗装率となっています。昨年からの冬のにかけて、積雪の不足で土中に凍結が深まり、また水道工事の路面修復など、一冬明けて舗装面のいれ込みが目立ちますが、市では計画的に化粧直しの工事をするにしています。

○驚別橋(旧中央橋)を永久橋に……来福橋も来年度完成の見込み

恵愛病院前の木橋かけ替工事は、二千万円を投資して永久橋に衣替え、この一月から通行開始されました。

また、幌別地区の来福橋拡幅工事は、二億二千万円をかけていま工事が進行中で、来年度にはこれも完成する見込みです。

○公営住宅は76戸…本年度さらに178戸

住宅難の解消には、田村市政が発足以来、総力をあげて市民に応える努力を重ねています。幌別東団地(東小中学校)に、市営住宅二十四戸、道営住宅二十四戸、千代の台団地(新生町)に市営住宅十二戸、幌別浜側地区に改良住宅十六戸と昨年度は七十六戸を建設、これで市内十六地区の住宅は、八百三十四戸になりました。これに本年度は、六月頃までに

幌別東団地に百四十四戸、十一月頃には、登別温泉地区に二十四戸、幌別浜側地区に十戸と、あわせて百七十八戸が完成する見込みで、市民は今から首を長くして待っています。

○公共下水道計画、四地区五ヶ所で説明会

昨年十月十七日から十一月十日までの期間、幌別・登別・登別温泉の各公民館など五ヶ所で基本計画、事業の進めかたなどについて、説明会を実施しました。

本年4月には、市政機構の中に「開発計画室」を新設、公共下水道事業の知事認可に向けて、本格的な作業に入ることになりました。

都市づくりには、道路・公園・下水道は、はぶけない重要な施設で

すが、特に、下水道は国費百八十億円、市費百七十一億円、受益者負担金三十九億円あわせて三百九十億円という、膨大な資金がかかる事業です。また市内に土地を有する市民三百三十万平方メートル、十一万円程度の受益者負担金を徴収(負担率は市議会決定される)するとなれば、土地をもつ市民一人ひとりの協力がなければこの事業はとて成功しません。また、事業は十年十五年と、実施区域ごとに分けて、長期間を要する大事業なので、市民の皆さんと相談しながら、市では原案をつめることにしています。

○用地買収おわる…ゴミ焼却工場53年度完成に

市内のすみずみから出るゴミが年間一万八千ト、いまの埋立地は六万平方メートル、ガスの発生・自然発火・汚水の流出・カラスの巣・悪臭などの弊害もあり、しかも用地はあと二年が限界、手遅れになっては大変と……田村市長が「七大施策」の中で根本整備を決定、処理能力三十トの焼却炉二基を備える三階建のゴミ焼却工場を三年計画で建設することにしました。そこで、し尿処理場付近の海岸地帯に二千四百平方メートルの建設用地を買収、設計費も含めて昨年度は、三千五百万円を投資しました。

今年度は、さらに二億四千万円をかけて上下家、基礎工事、炉の一部ポストル部分の工事に着手します。二年後には、火入れ、ができる見込みです。

ゆりかごから葬場まで。福祉社会の建設をめざす田村市政が、任期内に「公立幼稚園を四地区に」建設を「公約」、その第一号が、富士町の用地で昨年十月から工事に入っていました。定員百六十名四教室の市立富士幼稚園が、五千五百万円での三月末に完成しました。これに先きかけて、二月には入園児もきまり、四月二十日父兄市民が見守る中で、希望の入園式が行われました。本年度は、第二号の幼稚園を上幌別地区に建設することになっています。

○幌中など三校に二億六千万円…僻地校(富岸小)も増設

道内の人口伸び率は、昭和五十年(前年対比)で、苫小牧、江別両市が四・一、札幌市が三・八、恵庭市三・〇、続いて登別市が二・九と第四位、千四百人(苫小牧市は五千百人)の年間増ですが、問題になるのは、学校施設等の受け入れ体制、ところが、市内にはまだある木造校舎、それも老朽化が目立つなど教育環境の不備から郷土の子弟教育、人間形成に手落ちがあつては大変と施設整備に田村市政が「七大施策」の中で最重点に掲げて取り組んでいます。

昨年度は、幌中木造校舎の増築に一億四千二百万円、登別小舎に七千一百万円、若草小舎、ブルー上家に四千二百万円、各小中校の下駄箱などに五百万円、西陵中周辺整備に約二百万円、また学校格差をなくする僻地校対策として、富岸小に五千万円をかけて屋内体育館を建設しました。また先生のため、共済融資住宅、を登別町に二千六百万円で建設し、こ

の三月頃すでに人居も終つていきました。これに続いて本年度は、学級数の増加を緩和し、どの生徒にもゆきとどいた授業を受けられるよう川上地区に西小分校を新設、幌中、登小、驚中の増設案をあわせて、実に、七億四千万円を投資することになっています。

○間口増、融資拡大に努力……市内の二高校

中学から高校全人へ——の声を高まる中で、市は登別高校の間口増を道教育委員会に要請、いま突っ込んだ話し合いが進められています。また、大谷高校整備についても、昨年度から私学振興基金協会の通して三百万円の貸付金を支出、本年度は、この貸付金を六百万円に増額しますが、これを原資に、三倍の融資額が大谷高校へ貸付けられる見込みです。

またこれとは別に、市内にもう一校道立高校を誘致する努力も続けられています。

この補助金は、就園児童保護者の市民税所得割を四段階に分類して補助額を算出、保護者一人に年四万円(七千円の範囲)でそれぞれの幼稚園へ補助、幼稚園から、保護者四百六十七名に昨年度支給しています。

○小・中生徒の遠距離通学助成……34人を320人に

これまで小学生は四歳以上、中学生は六歳以上の通学距離が対象でしたが、これを昨年七月から、正規の交通機関を利用する生徒に助成範囲を拡大しました。これによって、驚別小中の通学遠距離児童も、含まれることになり、拡大前の対象生徒三十四名が三百二十名の十倍にふえ、昨年度は二百十万円の助成金を父母の家



100%をめざす道路舗装は市内のすみずみまで進んでいます。



思い切った先取りで建設中の市営住宅。

希望の開園式

庭に交付しています。これによつて、幾分でも市内の家庭が楽になるならば……と、市教委の担当職員が、事務に手落ちがないよう、気を配っています。

○各種社会学級・婦人研修の拡大

市民が、広い視野と豊かな知識を養う、活動の場として、昨年度は、公民館講座、二十コース、家庭教育講座、六コース、婦人学級、一コース、社会教育集会、五コース、商工青年学園、一コースの三十三コースを実施しました。これらの講座の参加申込みは、自由で、市の「広報」で応募を呼びかけましたが、定員をオーバーするなど、市民の関心が、次第に高まりをみせているため、本年からは、もっとコースをふやし、内容も充実化することになっています。特に昨年度は、婦人活動のリーダーを養成するため、道外研修をしてもらいました。

○老人大学、延べ千五百名が参加

六十五歳以上の男女を対象に、自らの生活に生きがいをもつと、老人大学「今昔教室」が、田村市長の提案で新しい試みで開設しました。この期間は、昨年九月から今年の二月まで、驚別・梶別・登別・登別温泉の各公民館の四教室で、それぞれ十一日間、延べ千五百十名のお年寄りが楽しいふんいきの中で真剣に受講しました。講師は、NHK放送局、伊達市、苫小牧市の老人問題担当者、地元学校長、俳句・川柳の先生などですが、「森の石松三十石船」など肩

のこらない映画もスケジュールに組まれました。参加者のはほとんどが、来年も是非に……と、はやばやの注文なので、今年は一層力を入れようと企画担当の職員が準備に急がしい状況です。

○移動図書館三十六ヶ所で開設

市民一人一冊を目標に、市の図書館では、これまで三万三千六百四十六冊の図書を確認しました。これを各地区の市民の利便に役立てようと、市では、移動図書館車、こぐま号、を新しく購入、昨年十一月十九日から、市内三十六ステーションに走らせました。昨年度は、全ステーションを二週間一回の割合で、こぐま号に常時二千三百冊の本を積んで毎週四日間出動、二万一千八百四十五冊の本を貸し出しました。登別市にはじめて、移動図書館が実現したことで、「小説本をもっと多く……」と、女性市民から好評をうけています。

○スポーツ・リーダー講習七回……体力づくり教室も

市民がたくましく健康な体力を養い、明るいスポーツ都市の建設をめざすため、立派なリーダーを養成しよう……と、昨年度は、スポーツテスト判定員講習会、スポーツ少年団指導者会議、バレー、バスケ、バドミントン講習会などあわせて七回、市と体育協会が一体となって勉強会を実施しました。また、一般市民の基礎体力づくりにと、市立総合体育館にトレー

ング器具を備え、市民体力づくり教室が毎週二回開設されています。このほか、趣味の大気スポーツとして、サイクリングロード、トレー射撃場の建設も年次計画で進められています。また、市民にあまり知られていない格好の家族連れの登山コース、カムイ・スプリ登山口、市で案内板を立てています。「梶別ダム」の道々から登って四時間で頂上です。体力づくりでころなコース……と、富樫体育課長が市民に利用をすすめています。

○買物公園の区域拡大

昨年度は、道公安委員会に要請、自動車交通をシャットアウト、昨年八月六日から十日まで、梶別銀座通り、富士橋通りに、歩行者買物天国を五日間実施しました。路上には移動ブランコ、ベンチ、花だんを特設、子供がノノビと路面に字や絵を書く姿も見られ、子連れの主婦が安心して買物ができるよう試みたものです。

○待望の市民まつり 二万五千の人出……緑日売店も一時間で品切れ

カラリと晴れた九月二十八日、初の市民まつりが、市と民間三十六団体の共同で催されました。当日の会場になった梶小グラウンドは、延べ二万五千人（室蘭民報調べ）の市民でこたえ返しの盛況でした。「緑日売店」チャリティ・オークションには、開店前から蛇行の列ができ一時間で品切れ、二回、三回の仕入れも底をつ

くありさま。また竹馬にフタアイブのちびっ子広場、歌合戦、しし舞、軽音楽、ミスコンテスト。そして、市民仮装踊りには、二一団体三百七十七人の仮装者、バス二台でピストン輸送、これに一般市民も加わり記念の手拭二千本がアツというまになくなってしまいました。釧路市、夕張市、市民まつりも有名ですが、関係者もあまりの盛況に、進行に汗だくの状態、今年の市民まつりに、予算を二倍にふやし、プログラム編成など、準備委員会がすでに二回開かれて、今から当日が楽しみです。

○観光開発基金一千万円を新たに積立

観光レクリエーションの内外需要が、今後一層増大するとみた田村村政が、登別温泉が国際温泉とし、世界的な特殊性の立地条件（地獄谷・大湯湖など）を重視、魅力ある開発を行ってだてで、知識経験をもつ、市民各層の意志をとり入れるため、昨年七月市民十二名からなる、観光開発審議会を新らしく発足させました。また、観光投資の資金に当てるための基金制度を新設、入湯税から一千万円を積立てました。本年度はこれに、二千万円を追加して積立てることにしています。

○ホツキ稚貝の放流に補助

登別の特産水産物、ホツキ貝の養殖奨励のため、稚貝・種苗を、海の島に大量放流して、沿岸海底の牧場化を年次計画で進めようと、昨年度はこれに二百万円の補助金を出しました。今年には更に、三百万円をみこんでいますが、市民は一連の計画が成功して、栽培漁業が活発化する日を見守っています。

○小型漁船のリーダー、無線設備にも助成

漁民を海難から守るために、リーダーを装置する小型漁船に対し

市民と共に明日を先取りする田村市長

10万都市の基本構想策定へ

以上田村村政の指針とする「七大施策」の中味、これを支える基本理念、そして一年を経過した行政の実績など、市政の総まとめをしてみました。市政の内容を市民みんなによく知ってもらい、みんなの意見を市政に反映し、みんなでよりよい市政を、市民の誰もが参加できるようなこの「特集」を組みました。登別市は、明治二年八月に開基そして昭和四十五年八月に市政施行。

いまや人口も五万二千人を越えて急速な発展を続けています。ところが、急激な都市化傾向に対応する道路・水道・下水道・教育施設・交通網などの生活基盤整備と不況下の物価高に悩む恵まれない人びとに対する社会福祉など、行政需要は一段と高まっています。が、反面、高度成長から低成長への移行によって地方財政は窮乏化をたどるなど、財政収支は非常に厳しさをみせています。しかし市政は、瞬時の停滞も許しませんので五年先、十年先の先取り行政を求めています。そこで市では、長期的な将来展望に立って、現在の「登別市総合基本構想計画」の全面的な見直しをはかり、人口十万人想定との総合的なまちづくりのビジョンと施策を市民参加の中で策定し、明日へ向けて躍進すべき方向を明らかにすることにしました。今後の市政を進めるに当って、田村市長は、「市民の苦しみを自分の苦しみにし、直接市民と密着して、連けいを保ちつつ対話を進め、国や道に、主張すべきことは大胆にこれを主張し、市民の意志を道政・国政に反映させる」と共に、市民のために先取りする市政へ向けて職員ともども努力いたします」と市民の皆さんのご理解、ご協力を求めています。

あなたはこんな場合どうしたらよいか

被害者の人権まもる審査会

●犯罪の被害にあって

交通事故、詐欺、おどしなど、犯罪の被害にあって、警察や検察庁に訴えたのに、検察官がその事件を起訴してくれない。

あるいは、選挙違反や汚職など社会の耳目をひいた重大な事件を検察官が起訴しなかったのは、どうも納得できない。

—こんな不満をもっている方はいませんか。

そういう方のために、検察審査会があります。

●審査の申立てを

犯罪の被害にあった人や、犯罪を告訴、告発した人で、検察官がその事件を起訴しないこと（不起訴処分）に、不服のある方は、だれでも、検察審査会に審査の申立てをすることができます。

相談や申立てについての費用は一切無料です。

●捜査のやり直しも

検察審査会では、事件の記録を調べたり、必要に応じて証人と呼んだり、実地見分をしたりして、検察官の不起訴処分の良し悪しを慎重に、審査します。

検察審査会で起訴すべきだという議決がなされた場合には、検察庁では、この議決を参考にして捜査をやり直し、起訴するのが相当だと結論に達したときは、起訴の手続きがとられます。



●検察審査会とは

選挙人名簿をもとに、広く国民の中からくじで選ばれた、十一人の検察審査員が、いわば民間人を代表して検察官のしごとをやり方を審査するという制度です。

検察審査会は、全国二〇七カ所

にあります。

検察審査員は、六月ごとに交替します。あなたもいつか審査員に選ばれるかもしれません。



行楽期における犯罪と事故の防止

☆ゆとりのある運転をしよう！

○ゆとりのあるスケジュールを組もう

○一時間に一回休もう

○酒を飲んだの運転は、絶対やめよう

☆お出かけに、ひと声かけて、カギかけて！

○ちよつとのお出かけにも、戸締りを忘れず

○出入口、窓の鍵は、シャッターロックにする、効果があります

○お出かけのときは、隣りにひと声、ルック中の用心を、たのみましよう

学田踏切りを交通止め

止め

国鉄室蘭本線（鷲別〜幌別間）の、学田通り踏切道（別図参照）は、レール取り替えと舗装修理のため、次のとおり、車輛の交通止めを行います。

●制限日時 昭和51年5月17日

あなたの近くに

爆破事件の犯人はいませんか？

去る三月二日朝、北海道庁一階ロビーで爆破事件が発生し、二名死亡、九十五人が重軽傷を負う残忍な事件がありました。道警察では総力をあげて犯人検挙と、この種事件の再発防止につとめております。

私たち市民も明るく平穏な街をつくるため協力をしましょう。



空気が乾燥しています。火の元には十分注意を

- 定員を守り、必ず救命胴衣をつけよう
- 山菜とりにも、思わぬ危険があります
- 遺留物（爆破事件に使われたと思われる物件）
 - ハッタ製消火器（高さ50cm、直径15cm位）
 - スポーツバッグまたはポストンバッグ（紺色デニム布地50cm位 取手茶色ビニール製）
 - 不審な点
 - 1ハッタ製消火器を持ち込んだり また盗まれた人。
 - 2スポーツバッグ、ポストンバッグを使っていたり、また盗まれた人。
 - 身元がはっきりしない。
 - 入居時の名前と違った名称で呼ばれている。
 - 親、兄弟と行き来や文通がない。
 - 何か用事があって声をかけると異常に驚くなど、生活について
- つぎの不審なことを知っている方は警察署、110番、派出所、駐在所に連絡しましょう
- 3 事件直後に転居した人。
- 4 爆破事件に異常に興味をもったり 意識的に無関心な人。
- 5 爆発直後、道庁の反対方向に立ち去り、またタクシーで立ち去った人。
- 6 爆発直後、道庁周辺に駐車していた不審な車。
- 7 三月二日午後一時ころまで地下鉄大通駅、コインロッカーを使用した人。
- 8 アパート、貸間、下宿、不動産業またアルバイトを使っている方は、
 - 身元がはっきりしない。
 - 入居時の名前と違った名称で呼ばれている。
 - 親、兄弟と行き来や文通がない。
 - 何か用事があって声をかけると異常に驚くなど、生活について
- 9 戸や窓をふさいだり、必要以上にカギをかけて厳重な防護をしている。
- 10 また、部屋の中を見せようとし、また、妙な音や変なおいがする。
- 11 金属類を切っているような音がする。
- 12 ハンダ付をしているにおいや、得体の知れない薬品のおいがする。
- 13 こみくずの中に解体された時計とか、変な金属片が見られる。
- 14 生活が不規則である。
- 15 めったに帰宅しないのに、帰宅すると数人が集まる。
- 16 家賃を借り主でない者が支払っている。
- 17 急に一週間位家を空けながら何のあいさつもなし。

道夫さん家 恒美 工藤



地の果ての木々の芽日々にくらめり
調理台にしんのうろこ光りをり
路のとう孫来るといふ電話あり

市岡 韓一
加賀谷みつ
佐藤 嘉一

俳句 市民文芸

惠寿園俳句会

募集

近頃、付近の空地でキャッチボールなどをして遊んでいる少年達を見かけませんか。その少年達が目的を持つよう、計画的に組織されたのが、スポーツ少年団です。現在登録市には、スポーツ少年団が十団体あり、約五百人の少年

スポーツ少年団員

○ 鷺別地区バレーボールスポーツ少年団 大畑 哲夫 (鷺別小6局7011)

○ 鷺別剣道スポーツ少年団 安食 孝 (6局6515)

○ 若草野球スポーツ少年団 泉 明 (6局8563)

○ 登別剣道スポーツ少年団 中林 豊次 (3局1066)

スポーツ短信

○ 鷺別健民スポーツ少年団(陸上) 佐藤 逸夫 (鷺別中6局7950)

○ あすなろスポーツ少年団(体操) 竹内あつ子 (鷺別中6局7950)



自然は健康と 休養の広場です
みんなで大切にしましょう

館崎 光代 (が) 入団しており、スポーツをとおして積極的に心身を鍛錬し、自己の可能性を十分に発揮しようとする活動を行なっています。各団では団員を募集しておりますので多数入団ください。入団については、次のところに問い合わせください。

中山 ミヨ
松岡 信市
青山 薫
片桐 サキ
陽炎の道駈けてくる兄妹
鯉漁語る父の眼輝きぬ
菅原ハルエ
米をとぐ水にも春のにはいけり
陽炎いる川原に園児輪となりて
増田 菊代
老同志語り尽きなし日脚伸ぶ
丸山 テル
春装うマネキン今日も見て通る

文化 短信

スクエアダンスの 会員募集中

登録市スクエアダンス研究会では、鷺別公民館において月に二回定期会を開いております。入会希望の方は、登録市鷺別町遠田貞雄(6局5036)へ問い合わせください。

○ 会費 一カ月 二〇〇円

「着物」着付教室

自分で着物を美しく着るために成人学校の一教室として、次のとおり開講しますので、希望者は申し込みください。

申し込みください。
○ 内容 美しい着物の着方とそのコツ。
○ 着物の結び方「半幅帯」から「儀式用袋帯」まで。(基礎的な体形別補整)
○ 会場 富浜児童館
○ 期日 五月二十五日、五月二十七日、六月一日、六月三日、六月八日(計五回)
○ 時間 十時～十三時
○ 定員 四十名(富浜、はまわし地区の婦人、定員になり次第締切ります。)
○ 申し込み先 鷺別支所(6局6111)
○ 受講料 無料
○ 講師 工藤恵子
○ 用意するもの 筆記用具、長着(ウールでもよい)、長襦袢、足袋、裾上げ、肌着、腰ひも四本、伊達帯二本前板、帯締、タオル一本、日本手ぬぐい一本(名古屋帯)、着物ベルト等。

大きく、ハツキ り聞こえます

ふつうの電話の声では、聞きとりにくい、という方のために、次の電話機が開発され、ご希望を、受け付けております。

○ シルバーホン「めいりょう」
受話機について、音量ダイヤルを、親指で操作するだけで

品名	使用料(月額)	工賃	新設費
シルバーホン「めいりょう」	一七〇円	二、〇〇〇円	本電話機は不要
フラッシュベル	二〇〇円	一八〇円	親子電話は二、五〇〇円
シルバールン	一八〇円	二、〇〇〇円	二、五〇〇円

詳細は五局三〇〇〇番へどうぞ。
登録市電話局

踏切事故防止に 協力ください

踏切では、次のことを守り事故防止にご協力ください。
一、踏切では、必ず一旦停止を守り左右の安全を確かめましょう。
二、踏切では、警報無視、列車の直前横断などの、危険運転は、やめましょう。
三、列車が通過しても、すぐ飛び出さないで、となりの線路の列車を、確かめましょう。
四、自動車には、信号炎管又は、赤旗と赤色灯を、備えつけよう。
五、線路の横断や、線路のそばは、歩かないようにしましょう。

ご寄贈ありがとうございます

〈社会福祉協議会へ〉
愛情銀行 渡辺バンド殿・二万九千三百七十円
物品寄贈 藤井昭三殿・衣類百五十点、柳松屋殿・衣類ほか百十一点、敷布団三點、山内市治殿・衣類三十五点、三原輝子殿・衣類二十五点、匿名・十五点
古切手寄贈 国立登録病院患者自治会一同殿 二百枚、渡辺吉次殿・百十枚 岩倉則子殿・三百枚

